

QOL

No.25

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



3月15日(火)、朱鷺メッセにおいて、第7回卒業式・大学院修了式が行われ、袴やスーツに身を包んだ学部生601名、大学院生25名の計626名が新たな社会へと巣立ちました。

INDEX

- 学長・副学長の挨拶
- 学習支援について
- 運動機能医科学研究所の紹介
- 海外研修特集
 - ・ フィリピン研修
 - ・ 韓国研修
 - ・ アメリカの食と栄養を英語で学ぶ
 - ・ アメリカ カリフォルニア研修
 - ・ アメリカ ロサンゼルス研修
- 新入生へのアドバイス
 - ・ 学科長
 - ・ 学生
- 学友会紹介
- CAMPUS NEWS
- 受験生の皆さんへ



新潟医療福祉大学

2011年4月7日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



新潟医療福祉大学 学長 山本正治

■専門 公衆衛生学、予防医学 ■学位 博士(医学)、M.P.H.
(テキサス大学) ■所属等 ポストン大学医学部リサーチフェロ
ー、新潟大学医学部教授、新潟大学大学院歯学総合研究科
教授、新潟大学医学部長、新潟大学大学院歯学総合研究科
長、新潟大学歯学系長、新潟県環境審議会会長、新潟県医
療審議会会長、日本がん疫学研究会総会会長、日露医学医療
交流財団国際シンポジウム機構長、日本衛生学会総会会長等
を歴任

若者に人気を誇る“ORANGE RANGE”が歌う『以心電信』が流行ったのは7年程前のことでした。今年入学された諸君が中学1年の頃ではなかったでしょうか。『僕らはいつも以心伝心。二人の距離つなぐテレパシー。…想いよ届け君の元に。未来につないでいく信号は愛のメッセージ』離れていても二人の心はつながっており、黙っていてもお互いの気持ちは分かっていると歌っています。しかし私の年齢になると、この歌詞の端々(はしはし)に携帯電話(メール)のCMが隠されているように思えてなりません。携帯メールをもっと利用して、あなたの気持ちを伝えましょうと。

『以心電信』は私にとって初めての言葉でしたので、さっそくインターネットで検索してみました。その結果、たくさん「いしんでんしん」があることを知りました。以心電信だけでなく、医心伝心、異心伝心、医心伝身、偉人伝心、以身伝心などなどです。それぞれ面白い意味が込められており、好奇心の強い私は、ネットサーフィンでとうとう一晩、寝ずに過ごしてしまいました。

本来の言葉は「以心伝心」です。「心を以って心を伝えること」ですが、具体的には「言葉で言わなくても心と心とで互いの気持ちが通じ合うこと」を意味します。元々は仏教用語で、言葉では表せない真理を師から弟子の心に伝えることから来ております。特に温良恭儉(おんりょうきょうけん) (穏やかで、素直で、うやうやしく、つつましかで、ひかえめな態度)を特徴とする日本人の間で、以心伝心は美德(びとく)とされてきました。ORANGE RANGEが、「離れていても二人の心はつながっている」と歌っているのも、美德の一つです。

しかし日本は今、大きく変わろうとしています。黙っているのは、心が通じないことが現実となりました。私は以前、働きながらアメリカで学んだことがあります。最近の日本はアメリカのような感じがしてなりません。アメリカの保健・医療・福祉・スポーツ(健康増進やリハビリ関連)の分野では、外国から医師、看護師を始めとして多くの専門職業人を受け入れており、また対象者(患者様)も英語を話す人だけではありませんでした。その為、このような職場環境では、言葉で言わなくても心と心とで互いの気持ち

「以心電信?」「以心伝心?」「以身伝心?」

～これから50年先の日本を見通して～

が通じ合うことはありませんでした。

日本はいま少子高齢社会と言われてます。少子高齢とは、14歳以下の年少人口が減ることと、65歳以上の老年人口が著しく増えることを意味します。しかしこの言葉のウラには、15歳から64歳までの生産年齢人口が減ることが隠されています。つまり働く人々が少なくなるのです。人口の将来予測では2005年から2055年の50年間に、日本人口は約3800万人も減るといわれています。そうなれば生産年齢人口の減少が顕在化するはずですから、誰が増え続ける65歳以上のお年寄りをサポートするのでしょうか。答えは簡単です。本学を卒業された皆様に加えて、外国から招いた保健・医療・福祉関係の専門職業人がサポートすることになると思います。

一方、日本が今までに培った医療技術は世界一です。この世界最高技術を求め、世界(特にアジア諸国)からメディカル・ツーリズム(健康診断などを組み込んだ観光旅行)と称して、外国人富裕層の入国が増えるはず。良くも悪くも、これからの日本は、今まで以上に外国人と共存する社会となるはず。いいかえれば、日本の国際化がさらに進行するはず。

このような社会変化が現実視される将来、入学生・在學生ともにこれから社会に出て活躍される方々は、心の準備をしておかねばなりません。ではどのような準備すれば良いのでしょうか。メールでやり取りする「以心電信」、心を以って心を伝える「以心伝心」でしょうか?そうではありません。正解は「以身伝心」です。言葉や具体的な行動で自分の考え方や意見を対象者に伝えないと、相手に理解してもらえなくなります。職場だけでなく皆様の住む地域社会でもそうなるでしょう。

本学は、これから50年先の日本の姿を見通して、皆様方を保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職業人に育て上げることを使命としています。その為には、専門知識・技術の伝授や資格取得率・就職率100%の達成に留まらず、「以身伝心」に必要なコミュニケーション力(まずは挨拶。自分の考えを相手の気分を害さずに伝える方法、ディベートの仕方など)を身につけていただきます。学生時代に努力してこれらの力を身につけると、卒業後きつと役立つ時が来ると確信しています。



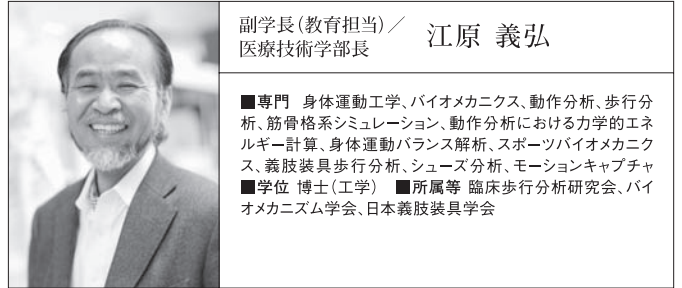
副学長(国際交流担当) 渡辺 敏彦

■専門 国際交流、職業教育 ■所属等 学校法人新潟総合学園副理事長、学校法人大彦学園理事長、新潟県専修学校各種学校協会会長、新潟県私立学校審議会委員、新潟県私学振興会副理事長、全国専修学校各種学校総連合会常任理事、専修学校教育振興会理事、新潟のちのち電話後援会副会長、新潟商工会議所教育・福祉部会長、新潟陸上競技協会会長、にいがた青年海外協力隊を育てる会副会長、新潟日米協会副会長、新潟・フランス協会役員、新潟日独協会理事、国際ロータリー第2560地区2007-08年度ガバナー 等

国際交流の重要性

本学の設立の基本理念は、1.「優れたQOLサポーターの育成」2.「地域社会のニーズに応えること」3.「国際交流と国際貢献」の3つであります。1と2・3は全く別項目のようですが、実は大変深く関わっています。即ち、優れたQOLサポーターは、まさに「地域社会」の中で、保健・医療・福祉の分野で活躍する訳ですので、地域社会とそのニーズを知る必要があります。3の国際交流・貢献ですが、QOLサポーターの活躍する専門分野は日本だけで独立している訳ではなく、「世界の中の日本」であると思います。即ち、QOLサポーターとしては、広い視野と最新の情報を得る必要がある訳で、国際交流は、そのための有効な手段であると思います。

さらに、QOLサポーターの「ハード」の部分は最新の情報・知識と優れた技術だと思えますが、その「ソフト」の部分は、人間性とコミュニケーション力になると思います。「ハード」は「ソフト」がないと機能しない訳ですので、人間性やコミュニケーション力を養い、それを磨くのは「国際交流」がうってつけだと思います。その機会を提供していきますので、積極的にトライして下さい。



副学長(教育担当) / 江原 義弘
医療技術学部長

■専門 身体運動工学、バイオメカニクス、動作分析、歩行分析、筋骨格系シミュレーション、動作分析における力学的エネルギー計算、身体運動バランス解析、スポーツバイオメカニクス、義肢装具歩行分析、シューズ分析、モーションキャプチャ ■学位 博士(工学) ■所属等 臨床歩行分析研究会、バイオメカニクス学会、日本義肢装具学会

学生満足度日本一を目指す

本学の使命は、保健・医療・福祉の分野で他職種と連携し自分の果たすべき任務をしっかりと遂行できる優れたQOLサポーターを育て、社会に送り出すことです。そのための環境をより強固にしていきます。具体的には「学生の授業満足度で日本一」といわれるような大学にしていきたいです。

学生にとって、もっとも重要なことは毎日の授業が良く理解できることでしょう。授業満足度が向上すれば学生は自主的に学習する為、好循環が生まれます。授業の満足度が向上すれば国家試験の合格率や就職率も上昇するでしょう。国家試験の合格率では既に全国一あるいは全国トップクラスを実現しています。これらがさらに堅実なものになるでしょう。授業満足度向上には各教員の努力・工夫がもちろん必要です。加えて各科目のもつ意味や位置づけを、各職種に必要とされる能力養成の中で再確認することが必要だと思っています。授業の中で学生のパワーを活用するような視点も必要でしょう。

大学をもっともっと楽しいものにするために、学年を越えた学生同士の助け合いや、学部・学科を越えた学生同士の連携をサポートするような環境も構築していきたいと考えています。さらに大学院の院生が学部の学生をマンツーマンで指導する体制も構築したいと考えています。



副学長(地域連携担当) / 丸田 秋男
社会福祉学部長

■専門 地域福祉政策、生活支援論、学校ソーシャルワーク ■学位 修士(地域政策学) ■所属等 新潟県長岡地域福祉センター次長、福祉保健部障害福祉課参事を歴任。日本地域政策学会、日本ケアマネジメント学会、日本社会福祉学会、新潟県自立支援協議会会長、新潟県第三者評価事業推進委員会委員長、新潟市社会福祉審議会委員長、新潟市環境審議会委員 等

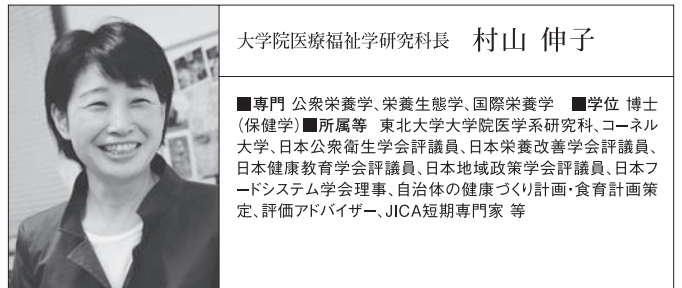
自分の可能性にチャレンジを!

本学は皆さん一人ひとりが、自らの可能性にチャレンジし、その可能性を限りなく追求することのできる大学です。

本学の学生は、保健・医療・福祉・スポーツ等の分野における専門知識・技術を学ぶだけでなく、環境やまちづくり、ひとづくりなど幅広い分野でのボランティア活動や地域貢献活動を通して、豊かな感受性と創造力を身につけるよう努めています。

学生の活動の一部を紹介しますと、地域の子どもの放課後支援、小・中学校及び高等学校における学習支援、地域の方々を対象にした高齢者介護の学習支援、難病や新潟水保病等の患者支援、地域住民・関係団体・行政等と連携した「ひとづくり」や「まちづくり」などに積極的に取り組んでいます。また、昨年7月にJR豊栄駅前開設したサテライトキャンパスを拠点にして、地域住民や自治会、商店街の方々と交流し、学内キャンパスでは得られない体験的な学習を深めています。

本学の大きな特色は、このように学生と地域社会を結び付ける多様な「社会的な懸け橋」(ソーシャル・レインボーブリッジ)の仕組みを有していることです。新入生の皆さん、本学での質の高い学びを通して、「他者の喜びを自己の喜びにする」ことのできる豊かな人間性を育み、自分の可能性を最大限に発揮しましょう。



大学院医療福祉学研究科長 村山 伸子

■専門 公衆栄養学、栄養生態学、国際栄養学 ■学位 博士(保健学) ■所属等 東北大学大学院医学系研究科、コーネル大学、日本公衆衛生学会評議員、日本栄養改善学会評議員、日本健康教育学会評議員、日本地域政策学会評議員、日本フードシステム学会理事、自治体の健康づくり計画・食育計画策定、評価アドバイザー、JICA短期専門家 等

社会に開かれた大学院に

新潟医療福祉大学大学院は平成17年度にスタートし、修士課程、博士後期課程を通じて、多くの個人や集団のQOL向上に寄与する高度な「保健・医療・福祉・スポーツのプロフェッショナル」を社会に送り出してきました。こうした実績にともない、新潟県外からの本学大学院進学者も増加しています。

保健・医療・福祉のニーズや仕組み、環境などが急激に変化し多様化している現代において、個人や集団のQOL向上に寄与するためには、高度な専門知識に加えて、状況を総合的・論理的に考え、本質を見抜いて的確に判断することが求められています。的確な判断のためには、多くの質の高い研究の蓄積と、それを使って有効な予防、治療、問題解決ができるスキルが必要です。

文部科学省でも社会に開かれた大学院のあり方についての議論が行われているところです。また、昨年度策定された本学の将来計画に合わせ、大学院でも計画を策定し、従来の教育研究者育成に加えて、高度専門職業人養成への方向性を打ち出し、より社会に開かれた大学院を目指しています。

そして、保健・医療・福祉・スポーツの総合的な大学院として、全国で、アジアで、トップクラスに位置づけられるよう、新たなステップを踏み出しました。保護者の皆様、地域の皆様より引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

学習支援 について

優れたQOLサポーターを育てることを使命と

する本学では、教職員による学習支援体制を確立し、
きめ細やかな学生サポートに力を入れております。

ここでは、本学の学習支援についてご紹介します。

目的

全ての学生が快適で問題なく学習できるように、学習環境を向上することを目的とし、特に心身に障害のある学生及び学業に不安を持つ学生に対する支援を目的としています。

学習支援体制の組織

学習支援は学習支援委員会が中心となって行っています。学習支援委員会は、各学科代表・健康管理センター代表、関連委員会代表者(教務委員会、学生委員会、教育開発委員会)・学校医・医務室(看護師)・身体障害者に関する専門家である教員・臨床心理士・精神科医・発達障害または精神障害に関する専門家である教員および事務局代表者などで構成されています。

さらに、委員会は、以下の3つの専門部会に分かれて活動しています。

<第1部会> 疾病・身体障害者への学習支援

<第2部会> 発達障害・精神障害

(ストレス過多・うつ傾向といったメンタルヘルス問題)

または、その疑いのある学生への学習支援

<第3部会> 学業に不安を持つ(低成績など)学生に対する
学習支援

学習支援方法

学年を問わず全学生に対して、アドバイザー制を設けています。そして、一人のアドバイザーが担当する学生数は原則的に10人以下としています。

学業に不安を持つ(必修科目の単位を修得できなかった学生など)、授業・試験欠席、授業態度などをアドバイザーが把握し、該当する学生と面談などを行い、原因究明・解決を図ります。アドバイザーのみで解決が難しい場合は、学科内の学習支援委員などと協力して各学科内で解決法を探ります。

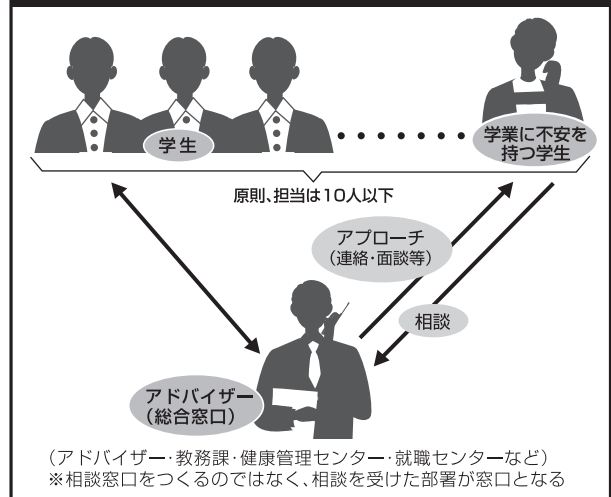
さらに学科内対応だけでは解決が難しい場合は、学習支援委員会の専門部会に分かれて対応策を練り、解決を図ります。

背景に疾病・身体障害などに原因がある場合は第1部会、発達障害・精神障害または、その疑いがあることなどに原因がある場合は第2部会、学習上の問題に原因がある場合は第3部会で、サポートを行います。

さらなる支援を目指して

今後はアドバイザーをはじめとした教員による各学生の見守りも重要ですが、何らかの悩みをもつ学生が気楽に教員に相談できるような雰囲気づくりを更に強化していきます。

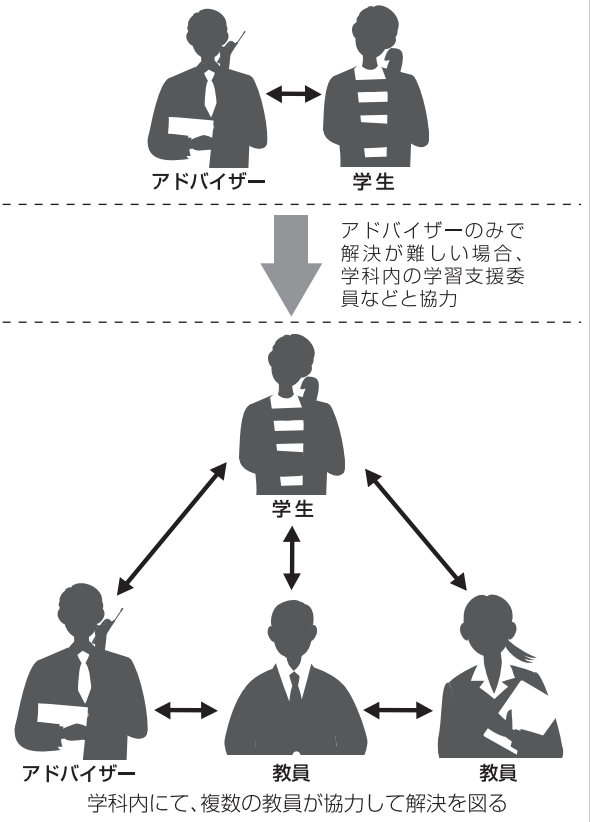
アドバイザー例



大学全体のセーフティネット例

全ての学生が快適に学習し、学生生活を送ることができるような環境をつくる為に、大学全体でセーフティネットを構築

アドバイザーが、学業に不安があると思われる学生などに対してアプローチを行い、解決を図る



運動機能医科学研究所の紹介

運動機能医科学研究所 / 所長 大西 秀明

2010年11月1日に本学に初の研究所が設置されました。研究所の名前は「運動機能医科学研究所 (Institute for Human Movement and Medical Sciences)」です。略してIHMS (アイムズ) といいます。同年12月13日に看板除幕式と見学披露が実施されました。

研究所運営委員は、大西 秀明 (理学療法学科 教授)、久保 雅義 (理学療法学科 教授)、田巻 弘之 (理学療法学科 教授)、大山 峰生 (作業療法学科 教授)、桐本 光 (作業療法学科 准教授)、丸山 敦夫 (健康スポーツ学科 教授)、山本 智章 (新潟リハビリテーション病院 院長) の7名になります。また、高橋 榮明 名誉学長が顧問となっています。現在、前述の運営委員、顧問の他に、研究員として相馬 俊雄 (理学療法学科 准教授)、椿 淳裕 (理学療法学科 講師)、菅原 和広 (理学療法学科 助教)、鈴木 誠 (作業療法学科 講師)、佐藤 大輔 (健康スポーツ学科 講師)、山代 幸哉 (健康スポーツ学科 助教) が在籍しています。



運動機能医科学研究所 見学披露時の写真

目的

感覚・運動機能、運動制御・運動学習および運動器に関する基礎および臨床研究を深め、深めた研究成果を広く世界に発信することを目的としています。更に、本学プロジェクト研究センターや新潟リハビリテーション病院および新潟骨の科学研究所とも連携した共同研究体制を構築し、研究・教育・社会貢献が調和した機能的環境の醸成を推進します。

主な活動

臨床研究、積極的な外部資金の獲得、情報発信、学内および関連施設における研究体制の構築になります。研究内容は、(1) 感覚・運動機能 (2) 運動制御・運動学習 (3) 身体運動分析 (4) スポーツ傷害を含む運動器障害に関する研究が中心になります。

具体的な手法は、脳磁図 (西新潟中央病院所有、亀山 茂樹院長と共同研究) (図1)、脳酸素モニタ (図2左)、脳波、経頭蓋磁気刺激 (図2右)、誘発筋電図、動作筋電図、三次元動作解析装置 (図3)、床反力計、重心動揺計、筋力測定機器、呼吸ガス分析器、リアルタイム血圧・血行動態計測装置などの計測機器を活用したものになります。

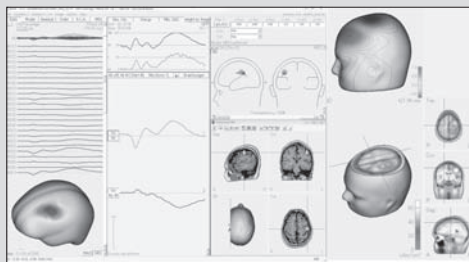


図1: 末梢神経を電気刺激した際の脳活動

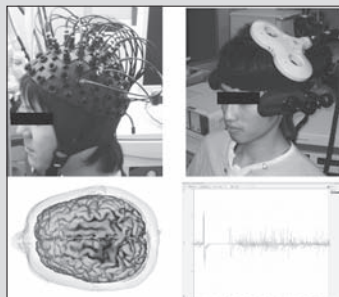


図2: 脳酸素モニタ計測時の写真 (左) と経頭蓋磁気刺激実験写真 (右)

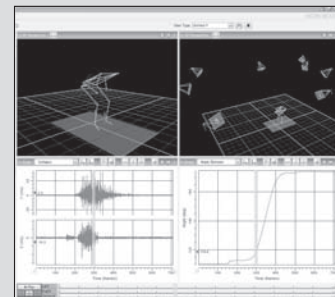


図3: 三次元動作解析装置、床反力計および筋電計を利用した人の動きの計測

成果

当研究所は設立されたばかりですが、既に下記の3論文が国際誌に取りあげられました。下線は当研究所の研究員です。

- 1) Onishi H, Oyama M, Soma T, Sugawara K, Kirimoto H, Murakami H, Kameyama S: Muscle-afferent projection to the sensorimotor cortex after voluntary movement and motor-point stimulation: An MEG study. *Clinical Neurophysiology* (2011) 122: 605-610.
- 2) Kirimoto H, Ogata K, Onishi H, Oyama M, Goto Y, Tobimatsu S: Transcranial direct current stimulation over the motor association cortex induces plastic changes in ipsilateral primary motor and somatosensory cortices. *Clinical Neurophysiology* (2011) 122:777-783.
- 3) Tamaki H, Yotani K, Yuki A, Kirimoto H, Sugawara K, Onishi H: Magnetic field strength properties in bone marrow during pulsed electromagnetic stimulation. *J Biomedical Science and Engineering* (2010) 3: 1156-1160.
- 4) Yamashiro K, Inui K, Otsuru N, Urakawa T, Kakigi R: Temporal window of integration in the somatosensory modality. -an MEG study-. *Clinical Neurophysiology* (2011) In-press.

今後の展望

今後、更に研究を深めるとともに、大型外部資金の獲得や研究体制の構築などを通して、新潟医療福祉大学および新潟医療福祉大学大学院の研究機能向上に貢献したいと思います。



世界から学ぶ

本学では、海外での経験を通じて幅広い知識を身につけることを目的とし、毎年様々な海外研修を実施しています。

今年度の春休みには、アメリカ、フィリピン、韓国への研修が企画され、多くの学生が参加しました。

参加学生からの報告や引率教員による事前指導の様子などをお伝えします。



Report 01

フィリピン研修

理学療法学科 古西 勇 准教授



今年もエメラルドグリーンの海に大小7000以上の島々が浮かぶフィリピン共和国に、3月後半、障害者支援の研修に行ってきます。現地では最高気温が30℃を越える暑さ最盛期を迎える季節、行程は新潟から成田空港への行き帰りを含めて10日間の予定です。

今回は、理学療法学科の学生5名(2年生3名、3年生2名)と作業療法学科の学生1名(3年生)の計6名の学生が参加し、理学療法学科と看護学科の教員それぞれ1名ずつが引率する予定です。

最初の行き先は、平成22年8月に本学と大学間協定を締結したルソン島中央部のアンヘレス大学です。そこで学生との懇親会、本学の学生一人ずつが現地学生のご家庭に宿泊させてもらうホームステイ、大学附属病院や貧困者層の多い地域での保健活動の見学などを行う予定です。

その次に、マニラ首都圏を拠点として、近郊にある障害者自立支援施設やマニラ首都圏にあるサント・トマス大学、小児医療センターなどを訪れる予定です。サント・トマス大学は今年で設立400周年を迎え、アジアで現存する一番歴史のある大学です。充実した研修にする為、参加学生は、事前に英語の勉強会に参加するなど、活発に活動しています。

また、楽しみの一つとして、海水浴やサファリ・パーク、ジャングルでのサバイバル・トレーニングもあります。トロピカル・フルーツなど美味しいものを沢山食べて、日焼けしてしまうかも知れません。

知見を深め現地の方と交流などを行い、1回も2回も成長した姿で3月末に帰ってきます。

※写真は事前学習時のものです。

Report 02

韓国研修

健康スポーツ学科 青木 美樹



私は2月14日～24日の11日間、韓国の大田市にある忠南大学校での語学研修に参加し、授業を中心に、伝統舞踊や伝統工芸などの文化体験を行いました。少しの単語しか知らなかった私にとって、韓国語で行われる授業には正直不安がありましたが、先生はジェスチャーや英語などを用いて分かりやすく伝える工夫してくださったので、授業の内容を把握して進むことができました。

文法を習い、会話の授業で反復することを繰り返したおかげで、不安でいっぱいだった授業も日を重ねるごとに韓国語を聞き取れるようになり、自分から話しかけられるまで上達することができました。

放課後は、現地の学生や友達同士で食事に出掛けたり買い物をしたり、楽しみながら授業の復習を行いました。またある時、学校内のバスケットコートでバスケットをしている学生たちがいたので、思い切って韓国語で話しかけたら一緒にゲームをすることができ、改めてコミュニケーションの大切さを感じました。

ホームステイ先では、夕飯にサムギョブサルをはじめ、食べきれないほどの韓国料理を出していただき、食べ方を教わりながら楽しく会話ができました。夕飯の後は、ホームステイ先の家族と街へ買い物に行ったり、夜遅くまで話をしたりしました。研修は、11日間という短い間でしたが、とても楽しく充実した日々を過ごすことができたと思います。





Report 05

アメリカの食と栄養を英語で学ぶ

健康栄養学科 村山 伸子 教授・小林 奈穂 助教

健康栄養学科では、平成22年度の海外研修として3月17日～30日の予定で6名の学生が、アメリカ西海岸に行きます。研修先は、本学の国際交流締結校のカリフォルニア大学フレズノ校とロサンゼルス市の病院、小学校等です。カリフォルニア大学では、授業参加、学生との交流等が企画され、本学学生は日本料理を作ったり、一人ひとりがテーマを決め、英語のプレゼンテーションで日本の栄養士の仕事や栄養表示、学校給食、食文化などについて紹介したりする予定です。ロサンゼルス市の病院ではアメリカの病院栄養士の仕事を学び、小学校ではアメリカの地場産給食や食育の現状を知る機会となるでしょう。

今回の研修はアメリカのことを学び、世界を知ると同時に日本のことについても深く考えるきっかけにしたいと考えています。



※写真は事前学習時のものです。

Report 03

アメリカ カリフォルニア研修

理学療法科 久保 雅義 教授

本研修は米国カリフォルニア州の数都市を舞台に3月17日～3月30日の期間、2週間弱の日程で実施されます。研修では「理学療法の知見をひろめる」、「英語で学ぶ」、「経験値の最大化」の3つの大きな目標を掲げています。

参加する学生は理学療法学科の学生ですので「理学療法」に対して興味を持っているのは当然です。従って3つの中で、最も達成が容易な目標といえます。

「英語で学ぶ」は「英語を学ぶ」と勘違いしている学生が多いようです。英語科の先生の指導に加え、理学療法学科独自の事前研修として英会話のグループ学習をしています。英語の試験に受かるために英語「を」学ぶ人はそれも良いでしょう。しかし「英語でなければ学べないものがある」と信じる人は、それを実現するための努力を惜しみません。それが「英語で学ぶ」ということです。

研修は通常春休み期間ですが、そのための準備は3ヶ月以上前から始まります。パスポートの取得から始まり、自分たちでできることは全て自分たちで準備することが本研修の基本です。インターネット等を駆使して情報の収集、交通機関の使い方、チケットの購入法、これら全ての細々したことを自分で「する」ことに重きをおいています。「経験」によってしか経験値は上がりません。「見る」だけの研修をしたい方はこの研修に参加してはいけません。



※写真は去年の研習時のものです。

Report 04

アメリカ ロサンゼルス研修

言語聴覚学科 中島 翔子

私たち言語聴覚学科学生は2月20日～27日までアメリカのロサンゼルスに海外研修に行きました。

病院で言語聴覚士として働いている方に付いて臨床見学をさせていただき、最先端の言語聴覚領域の治療を直に見ることができました。見学して感じたことは、どの言語聴覚士の方も自分の仕事に誇りを持ち、知識・経験を生かして自由に楽しくリハビリを行っていたということです。これは全ての職業においても大切なことだと思います。また臨床実習に来ていた学生さんと話をする事もでき、将来自分がどのような言語聴覚士になりたいかを考えることができました。

さらに大学の授業に参加し、同じ分野を学ぶ学生の勉強への姿勢も見ることができ、今までの自分の勉強に対する姿勢を見直す良い機会になったと思います。

勉強だけでなくディズニーランドやユニバーサルスタジオアメリカなどを観光し、楽しい時間を過ごしました。アメリカの食事はなんといっても量が多い!でも美味しい!(笑)

1週間という短い期間でしたが、今回の研修での経験は、自分のこれからの学生生活や臨床現場に出た際に必ず役に立つと感じています。様々な刺激を受けることができ、海外研修に行けて良かったと思います。



新入生への アドバイス

| 学科長 |

Advice



充実した学生生活を!

医療技術学部 理学療法学科 大西 秀明

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの4年間は、皆さんの人生のなかで最も充実した時期になると思います。自由な発想のもと専門家になるための知識と技術、教養を身につけながら全てのことに対して積極的に行動を起こして下さい。皆さんの心が次第でこれからの人生が大きく変わってきます。



Advice



有意義な生活を

医療技術学部 作業療法学科 大山 峰生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学では、自分の将来計画に基づき自主的に勉学に励むことが求められます。また将来、作業療法士として活躍するためには、できるだけ幅広い分野に関心を持ち、様々な経験を積むことが重要です。4年間の大学生活は、短いものです。是非とも時間を有効に使い、有意義な大学生活を過して下さい。



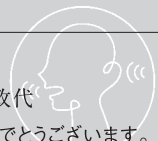
Advice



「夢」の実現のためには

医療技術学部 言語聴覚学科 槽谷 政代

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活や将来の夢を描いて胸が高鳴っていることでしょう。夢の実現には自己の基礎学力、社会性、幅広い教養力などを持ち、論理的、継続的な行動力、すなわち「継続的な努力」を行うことで初めて叶うものです。努力は「夢」の実現への近道です。



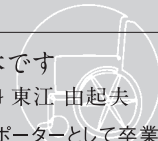
Advice



あいさつがすべての基本です

医療技術学部 義肢装具自立支援学科 東江 由起夫

4年後に素晴らしいQOLサポーターとして卒業して下さい。そのための基本は毎日のあいさつです。笑顔で「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」これで気持ち良く毎日がスタートします。この繰り返しで良い友達が見つかり、尊敬できる師に出会い、頼もしい後輩が育ちます。笑顔DEあいさつ!!



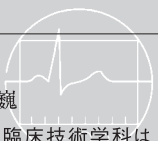
Advice



初心、忘るべからず

医療技術学部 臨床技術学科 追手 颯

ご入学おめでとうございます。臨床技術学科は臨床工学技士と臨床検査技師のダブルライセンス取得を目指した日本で初めての学科です。皆さんは勿論のこと、私ども教職員スタッフも4年後のこの目標達成に向けて日々、努力を積み重ねなければなりません。お互いに初心を忘れず、信頼し合って着実に一歩ずつ階段を登ってゆきましょう。



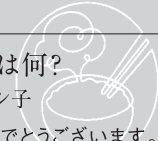
Advice



大学生と高校生の違いは何?

健康科学部 健康栄養学科 斎藤 トシ子

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。不躰ですが皆さんは、『大学生と高校生の違いは何ですか?』と聞かれたらどう答えますか?4年後にその答えを聞かせて欲しいと思いますが、一人ひとりの大学生活の過ごし方、考え方で答えは大きく異なるだろうと思います。大学生活が一生の宝、または誇りになることを期待しています。



Advice



文武両道はいかがですか!

健康科学部 健康スポーツ学科 丸山 敦夫

4年間で新しい自分を発見し、新しい自分を築き上げてみませんか。スポーツで「からだ」と「こころ」を鍛え、健康科学やスポーツ科学で「あたま」を鍛える。スポーツを通じて養った知恵と技能をスポーツ科学や健康科学の知識に融合すると、新しい自分を発見でき築くことができるでしょう。動きながら考える人になりませんか!



Advice



考える力

健康科学部 看護学科 塚本 康子

看護は実践の科学と言われ、実践には判断力が求められます。しかも判断は、正しい判断でなければならない、判断するためには考える力が必要です。看護学を学んでいく基礎として、考える力を養って下さい。本を読解したり、人の話を関心を持って聞いたり、疑問を持ったり、日常の様々な場面で学んで下さい。そして私たちと大いにディスカッションしましょう。



Advice



積極的に、幅広い経験を

社会福祉学部 社会福祉学科 伊東 正裕

ご入学おめでとうございます。全員が国家試験を突破して、実力あるソーシャルワーカーとして活躍できるよう、4年間、授業はもちろん、ボランティア活動、サークル活動など、様々なことに積極的に取り組みましょう。幅広い経験は、将来きっと役に立ちます。教員は皆さんを応援していますので、気軽に相談して下さい。



Advice



よく遊び、良く学べ

医療経営管理学部 医療情報管理学科 東條 猛

世の中の人々が一生を楽しく健康に過ごす為に、本学では各専門職と連携したチーム医療を実践できる、優秀な「QOLサポーター」を育てています。さらに、医療情報管理学科では、医療事務・医療情報・医療経営の各分野の知識や探究心を身につけて、協調性やコミュニケーション能力を高めていきます。スポーツやサークル活動など青春を謳歌しながら、友達と一緒に勉強しましょう。





学科長&学生からのアドバイスをお届けします。

| 学生 |

Advice



1年生の学習は
人生学習の
土台です!

医療技術学部
理学療法学科
山岸 亜希

学年が進むにつれて、1年生で習う授業内容がとても大切であったと感じています。1年生のはじめの学習は基礎科目ばかりで、もどかしいかもしれませんが、しかし各分野の専門知識は、基礎科目の習熟度によって理解の度合いが変わります。その分野のスペシャリストになるため、同じ夢を持つ周りの仲間とともに頑張ってください。

Advice



充実した4年間を!

医療技術学部
作業療法学科
小泉 航二

1年生で習った内容は資格取得などの基礎となる為、分からない時は先生方・周りの仲間に聞くなどして、きちんと理解しておきましょう。勉強は大変かも知れませんが、その勉強が自分の夢へと繋がっています。自分の将来の姿を想像しながら、夢に向かって4年間充実したキャンパスライフを送ってください!

Advice



将来に繋がる
自分づくりを

医療技術学部
言語聴覚学科
真柄 綾香

1年生では基礎知識となる授業が多く、実際に医療に携わるとい実感が湧きにくいと思いますが、2年生になると講義形式に加え演習形式の授業も増え、具体的に専門分野を学んでいく為、グッと授業が面白くなります。また、学科の枠を越えた友人作りをすることで様々な知識・情報を吸収できる為、自己のスキルアップに繋がると 생각합니다。

Advice



4年間
頑張れるコツ

医療技術学部
義肢装具自立支援学科
秋山 朋信

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に向けて気持ちが高まっていることと思います。充実した4年間を過ごす為には、勉強と遊びのバランスがとても大切です。アクセル全開で頑張り、身体と頭が疲れてしまったら、その分遊んでリフレッシュし、大学生活をエンジョイして下さい。

Advice



素敵な
学生生活を!

健康科学部
健康栄養学科
小川 美沙

大学生活では、自ら考え、選択し吸収していくことが求められます。3年次の実習では地域の方や患者様の声を実際に肌で感じる事ができ、貴重な体験をすることが出来ました。また、本学科では、新潟まつりに参加するなど勉強以外にも楽しいことが沢山あります。ぜひ、多くのことにチャレンジし、素敵な学生生活を過ごして下さい。

Advice



「大人」としての
第一歩

健康科学部
健康スポーツ学科
池田 沙織

大学では授業以外にも多くの「学び」があります。私はバレーボール部に所属し、練習メニューの作成はもちろん、組織運営や試合の遠征計画など全て自分たちで行いました。また、実習では、社会人としての責任と自覚を求められる経験もしました。大学では学生気分を満喫しつつも、社会人の準備を確実に進めて素敵な大人になって下さい!

Advice



皆さんの入学を
楽しみにしています

健康科学部
看護学科
佐藤 成美

ご入学おめでとうございます。素敵な夢を持ち、これから始まる大学生活をとても楽しみにしていることと思います。大学生活は今までの高校生活とは異なり、「自由」だと感じる事が多くなると同時に「自立と責任」が求められます。不安なこともあると思いますが、たくさんの人と出会い、今抱えている夢を大切に大学生活を充実させて下さい。

Advice



人との「輪」を
広げる!

社会福祉学部
社会福祉学科
高野 庸子

大学で得る知識もちろん大切ですが、様々な方を援助する職業を目指す私たちにとって、人との関わりが最も大切だと思います。大学内でたくさんの仲間をつくり、さらに視野を広げてボランティアやアルバイトなどにも挑戦すると、人との「輪」はどんどん広がっていきます。たくさんの人と共に、楽しい大学生活を送ってください。

Advice



ケジメのある
行動を

医療経営管理学部
医療情報管理学科
一ノ瀬 靖紀

入学当初は何かと不安もあることと思いますが、本学は他学科との交流がたくさんあるので、積極的に話しかけると友達がたくさんできるはずですが、しかし楽しいからといって「遊び」だけでなく「ケジメ」のある行動を心がけ、勉学と遊びの両立を目指して頑張ってください。互いに成長できる友人と一緒に、楽しい大学生活を送りましょう。

What's
学友会

大学と地域の活性化を目指す! 学友会紹介

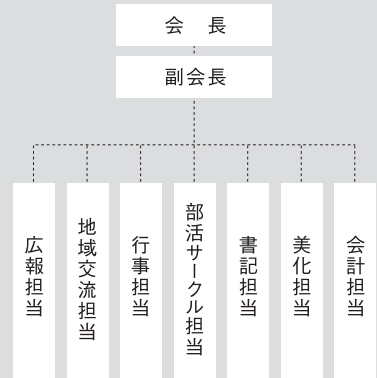
こんにちは!学友会です!!このページでは、学友会組織と、その活動内容についてご紹介します。

学友会とは、中学や高校の生徒会組織に似ています。私たちは、文化活動やスポーツ活動及び地域活動を通じて、学生同士の親睦、地域との交流を図り、学生の皆さんがより良い学生生活を送れる為に日々活動しています。学友会メンバーは、各学科から、ひと学年2~3人の集まりで構成されています。特に今年から臨床技術学科が新設されましたので、新1年生の学友会メンバーを募集中です★

学友会の主な活動は、伍桃祭(学園祭)、スポーツ大会などの大学行事の企画運営、部活動の支援、学内の美化活動などです。今年度から新しい企画としてフリーペーパーの発行も行っています!組織というと堅いイメージを持ってしまいかもしれませんが、そんなことはありません。学友会は学年や学科の枠を越えて仲が良く、楽しく、それぞれが自分の仕事に責任を持って頑張っています!!!

学友会はこれからも様々な活動を通じて、大学と地域の活性化を目指していきたく思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

| 組織図 |



MEMBER MESSAGE

皆さん、こんにちは☆いつも学友会の活動に協力して頂いて、ありがとうございます。学友会のメンバーは学部学科を超えて仲良しです!楽な仕事ばかりではないですが、その分楽しい思い出がたくさん作ることができます。部活・サークルでは経験することのできないことだって経験できちゃいます!!学科を超えて友達もたくさん作れますよ。やる気のあるそこのあなた!!私たちはあなたを待っています!



会長
理学療法学科
大井 結季



副会長
健康スポーツ学科
濱田 祐輔

広報の仕事でメインとなるのは伍桃祭(学園祭)です!!伍桃祭では、ポスター、パンフレットやホームページの製作、メールマガジンの送信、メディアとの連携による伍桃祭の紹介などがあります。裏方の仕事が多いように見えますが、テレビ出演での伍桃祭紹介もあります。学友会の仕事はとてもやりがいがあります。ユニークな面々もそろっています。学友会に入りましょう!!そして、できれば広報へ。(笑)

学友会では様々な行事を思いっきり楽しんでいます。伍桃祭(学園祭)を始め、今年から新入生歓迎会(桃迎会)を企画しています。交流を深める場としてぜひ楽しんでもらえれば幸いです。さらに本学のイベントの告知や旬な話題、知って得する情報などを読み物として発信するため、フリーペーパー(RiRi)も制作しています。大学生生活を本気で楽しみたいと思っている人は、ぜひ学友会に参加してください!!



広報担当
理学療法学科
田村 大地

YEAR SCHEDULE

主な行事と学友会の動き

平成23年

- 4 ●リーダー研修会
●新入生オリエンテーション
- 5 ●学友会総会
●美化キャンペーン
●新入生歓迎イベント
- 7 ●夏季スポーツ大会
- 9 ●美化キャンペーン
- 10 ●伍桃祭
●美化キャンペーン
●学友会総会(中間決算)
- 11 ●秋季スポーツ大会
- 12 ●美化キャンペーン

平成24年

- 1 ●美化キャンペーン
●学友会総会

部活 |

- | | |
|-------------|-----------------|
| 男女バレーボール部 | 準硬式野球部 |
| 男女バスケットボール部 | スキー部 |
| サッカー部 | 剣道部 |
| 水泳部 | ボランティア[レクア・コム部] |
| テニス部 | 和太鼓部「颯」 |
| 軟式野球部 | 吹奏楽部 |
| 陸上競技部 | 茶道部 |
| ハンドボール部 | VICON部 |
| ソフトボール部 | 軽音楽部 |
| フットサル部 | 園芸部 |
| 卓球部 | 写真部 |
| バドミントン部 | 手話部 |
| 弓道部 | 学生サークル「Kids」 |

サークル |

- ダンスサークル
ソフトボールサークル
バスケットボールサークル
スノーボードサークル
男女混合サッカーサークル
英語club
バレーサークル
etc....



学友会メンバー大募集!!

お問い合わせはこちらまで → gakuyuu@nuhw.ac.jp

フレッシュな1年生を大募集しています!ちょっとでも興味がある人は第3厚生棟1階にある学友会室(I104)をノックしてね!

新潟水俣病の現地学習と新潟水俣病患者との交流プログラム

NEWS 01

本学では、平成22年度から社会福祉学科学生が、社会病理学の授業やゼミ活動を通して新潟水俣病の学習に取り組んでおり、この度、新潟水俣病関連情報発信事業の一環として「新潟水俣病の現地学習と新潟水俣病患者との交流プログラム」を行うこととなりました。

新潟水俣病関連情報発信事業とは、新潟水俣病に関する情報・教訓を広く正しく発信することにより、県民の新潟水俣病に対する理解を促進し、地域全体が新潟水俣病患者様を支えるような社会づくりを行うことを目的とした、新潟県が執り行う事業です。

2月15日(火)の事前講演会では、本学キャンパスにて、「新潟県立環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)」の塚田館長から、新潟水俣病の概要や歴史について、実際に被害にあわれたご家族の事例を通してご説明頂き、新潟水俣病問題について理解を深めました。

3月1日(火)の現地学習では、新潟水俣病と関係が深い阿賀野川流域の旧昭和電工鹿瀬工場跡地や鹿瀬発電所を見学し、その後、集会所で新潟水俣病の症状を訴えながらも国の基準では患者と認定されていない6名の患者様と車座になってお話しを伺い、患者様が話される新潟水俣病の症状や苦しさなど、時折メモを取りながら真剣に聞いておりました。

参加した社会福祉学科(2年生、3年生)53名の学生からは、「実際

に現地を見ることで、新潟水俣病問題を改めて身近な問題に感じた」「将来、社会福祉の専門職となる上で新潟水俣病について理解する重要性を改めて痛感した」「困難を乗り越えていらっしゃる被害者の方から、むしろ元気を頂いた」などの声があがり、このプログラムを通して、将来、社会福祉の専門職となる上での貴重な学びを深めることができたようです。また、患者様からは「若い方々とお話できることが喜びであり、とても嬉しい」と仰って頂きました。

本学では今後も、新潟水俣病の情報を正しく発信することで、地域全体で患者様を支えるような社会づくり目指して、学生が新潟水俣病問題に関心を持ち、正しく理解できるよう様々な取り組みを、積極的に行って参ります。



「2012学内企業就職説明会」実施

NEWS 02

2月17日(木)、本学にて「2012学内企業就職説明会」が実施されました。

この就職説明会は、一般企業へ就職を希望している本学3年生の就職支援の一環として、本学就職センターが毎年実施しているもので、今回で4回目の実施となります。昨今の就職難の中、参加企業の減少も懸念しておりましたが、昨年を上回る32社45名の採用担当者にお越し頂き、本学学生も約120名が参加しました。

当日は最初に全体会を行い、各企業からPRを行って頂いた後、別会場で行われた個別ガイダンスでは、各企業の採用担当者が事業内容や採用スケジュールなどを説明し、参加した学生は時折メモを取りながら熱心に聞いておりました。

採用担当者からは「他大学より意見を述べる学生も多く、学生の意欲を感じた」「多くの学生とお会いすることができて良かった」「学生の中には他の合同説明会で何度もお会いしている学生もいて、非常に熱心で素晴らしいと思いました」などの感想を頂きました。

また、参加した学生からは「他大学との合同企業説明会とは違った

雰囲気で、非常に落ち着いて聞くことができたので良かった」「時間内に様々な分野の企業の説明を聞くことができて良かった」「自分に向いている職種が理解できたし、先輩と話しをすることができたので良かった」「少人数での説明を受けられたので質問しやすかった」など、これからの就職活動に向けて大変有意義な説明会になったようです。

本学では今後もこうした就職支援を積極的に行い、学生の夢の実現をサポートしていきます。



「平成22年度 新潟医療福祉大学 第7回卒業式・大学院修了式」実施

NEWS 03

3月15日(火)、朱鷺メッセにて「平成22年度 新潟医療福祉大学 第7回卒業式・大学院修了式」が実施されました。

今回の卒業式では601名の学部生と大学院生25名がこの日を迎えることができました。卒業式に先立ち、先日の東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に、哀悼の意を表し黙祷が捧げられました。続いて、山本 正治学長から学位記が手渡され、登壇者は緊張の面持ちで受け取っておりました。学長式辞の後、平成22年度の学業成績優秀者など56名の表彰や来賓より祝辞を頂きました。

その後、卒業生代表の看護学科 渡邊さんより答辞が述べられ、記

念品が理学療法学科 佐藤さんに手渡されました。会場では感極まって涙ぐむ学生の姿も見られました。

高齢化が進行する日本社会において、更にニーズの高まる保健・医療・福祉の専門職として、大きな希望と責任を胸に、本学を巣立っていった卒業生の今後の大いなる活躍を心より祈っています。



受験生の皆さんへ

イベント案内

オープンキャンパス | 第1回/7月16日(土) 第3回/8月7日(日)
第2回/8月6日(土) 第4回/9月3日(土)

大学説明や入試説明はもちろん、全10学科による40種類以上の体験プログラムを用意し、皆さんの「知りたい」全てに応えます!



キャンパスツアー | 第1回/4月23日(土) 第4回/11月3日(木・祝)
第2回/6月18日(土) 第5回/12月10日(土)
第3回/10月9日(日)

入試対策講座など開催ごとに異なるプログラムを用意し、皆さんが「今」知りたい情報を提供します!



伍桃祭 (大学祭) | 1日目/10月9日(日)※ 2日目/10月10日(月・祝)
※キャンパスツアーと同時開催

ゲストを招いてのライブなど様々なイベントを実施します!是非キャンパスライフの楽しさを体感して下さい!



メールマガジン案内

新潟医療福祉大学では月1度、本学の様々な情報をメールマガジン「QOLサポーター新潟(NUHW)」として皆さんにお届けしています。イベント情報・入試情報などの最新情報や、教員・学生からのメッセージ、先輩の合格体験談など進路決定や入試対策の参考になる特集をはじめ、様々な内容を予定しています。ぜひ本学ホームページからご登録下さい。

ホームページ案内

URL <http://www.nuhw.ac.jp/>

携帯 <http://www.nuhw.jp/m/>
(携帯電話からはコチラ)

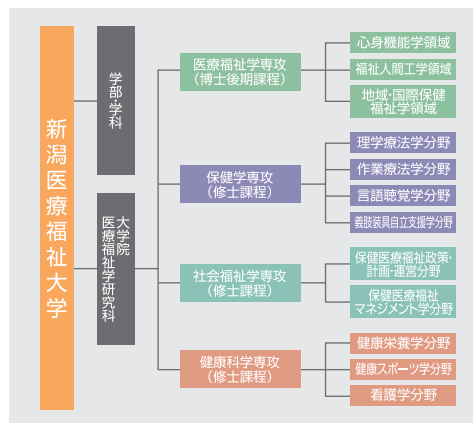


新潟医療福祉大学の情報が満載です。新着情報やイベント情報などを随時更新していきます。ぜひご覧下さい。
資料請求・イベント申し込み、メールマガジン登録等はこちらからどうぞ。

大学院

大学院のご紹介

わが国では、大学・大学院における保健・医療・福祉分野の研究・教育組織はまだ極めて少ないのが現状です。本学ではこのような現状を受け、2005年度に修士課程、2007年度に博士後期課程を設け、先進欧米諸国の水準を目標に、教育・研究体制の整備を進め、同分野の教育研究を推進しています。院生の中には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・看護師・健康運動指導士・社会福祉士等々、保健・医療・福祉分野において現役で活躍している方々が多数学生として在籍しており、修了生の中にも大学教員として就職された方、病院・施設に戻り現場の第一線で活躍されている方などがいます。本大学院では今後も新しい時代に即した高度専門職業人と優れた教育者・研究者を育成し、保健・医療・福祉に対する社会的ニーズに応えていくことを目的とします。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様へ本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

